

田原市図書館ふしぎ文学半島プロジェクト 2022
“ふしぎ文学の達人”が選んだ 「ふしぎ」 オススメ本

選者：金原瑞人氏（翻訳家・大学教授）

選者コメント

1. 『ファンタジー 配色アイデア事典』 桜井輝子・著 橋賢亀・絵 エクスナレッジ 2022

◆「シンデレラ」「雪の女王」「船乗りシンドバッドの冒険」から「雪女」まで、古今東西の「物語」をテーマにした配色アイデア事典。橋賢亀のイラストと色に翻弄されながら、桜井輝子の解説を読むと、納得する前に感動してしまう。

2. 『ナイトランド・クォーターリー vol. 29 サロメ、無垢なる誘惑者の幻想』
アトリエサード・編 アトリエサード 2022



◆知る人ぞ知る、この雑誌も29号。その特集が「サロメ」。といっても、ありふれた特集ではなく、メアリー・シェリーの「邪視譚」、ラフカディオ・ハーンの「雪女」、アメリア・B・エドワーズの「サロメの話」、岡和田晃の解説「無垢なるサロメは死の境域で舞う」など、マニアなら膝をたたかないではいけない構成。

3. 『怪談 KWAIDAN』 ラフカディオ・ハーン・著 円城塔・訳 KADOKAWA 2022

◆ううん、なんだろう、これは。そう思いつつ、一気に読了。英語圏の人が小泉八雲の『KWAIDAN』を読んだら、こんな感じなんじゃないか、という発想から生まれた、直訳版『怪談』。「モサクとミノキチはドアを固く閉めると休もうとして横になり、藁製のレインコートにくるまった」というのは、「ユキ・オンナ」の一文。

4. 『アーモンドの木』 ウォルター・デ・ラ・メア・著 和爾桃子・訳 白水社 2022

◆ご存じ、イギリスの児童文学作家、ファンタジー作家、デ・ラ・メアの短編集。表題作ほか、「ミス・デュヴィーン」「ルーシー」「伯爵の求婚」など、いかにもデ・ラ・メアらしい短編が7編。エドワード・ゴリーの挿絵もいいが、案外と淡泊な訳文もいい。

選者：東雅夫氏（アンソロジスト・文芸評論家）

1. 『アナベル・リイ』 小池真理子・著 KADOKAWA 2022

◆セミプロ劇団の素人女優と辛口劇評家の意外な恋の展開。だが幸福の絶頂で、女優は不可解な突然死を遂げてしまう……残された人々の前に、見え隠れする死者の影。E・A・ポオの絶唱「アナベル・リイ」の不吉な詩句をなぞるようにして、死のヴェールの彼方に、女性たちが垣間見たものとは……!? 不可視の恐怖をありありと麗しく描き出す小池真理子の、集大成的な迫真の長篇ゴースト・ストーリー。

2. 『ホフマン小説集成』上下巻 E. T. A. ホフマン・著 石川道雄・編訳 国書刊行会 2022

◆E・T・A・ホフマンの翻訳者として、石川道雄ほど適任な人物を、私はほかに知らない。日夏耿之介門下の俊英として活躍する一方、詩や翻訳に独自の風趣あふれる文学世界を構築した。私も以前、ちくま文庫の〈世界幻想文学大全〉に石川訳『黄金宝庫』を採録したことがあるが、こんなに多くのホフマン作品を訳していたとは、寡聞にしてしらなかった。国書の元局長氏のヒマに明かせた道楽の賜だろう、嘉すべし、嘉すべし！ さすがに〈集成〉を謳うほどの分量ではないが……。

3. 『メキシカン・ゴシック』 シルヴィア・モレノ＝ガルシア・著 青木淳子・訳 早川書房 2022

◆こちらは最新の一冊。ラヴクラフト作品が大好きで、史上空前の菌類アンソロジーまで編んでしまった才媛シルヴィアちゃん。本書は、その本領が遺憾なく発揮された、異形の長篇ゴシック小説である。帯にも出てくるゴシック界の定番スターたちの作品もしっかり取り込みつつ、後半に到るや、本領全開！東宝映画の〈変身人間〉シリーズも真っ青の、呪われた館の描写は圧巻だ。

4. 『台湾の妖怪伝説』 何敬堯・著 甄易言・訳 原書房 2022



◆いま、台湾の妖怪シーンが熱い！ その渦中であって活躍する何敬堯氏とは、なぜか御縁があって、数年前（つまりコロナ前ね）に来日されたときにも、トークショーに伺ったことがある。真面目な学究っぽい、好青年だ。本書は、氏の本格的な日本初紹介となる翻訳書。台湾全土の妖怪・心霊スポットを、みずからカメラ片手に訪ね歩いた紀行文と、それぞれの伝承の由来が記されている。台湾妖怪めぐりに必携の一冊である。

（雑誌「東京人」12月号に本書をめぐる何さんとの対談が掲載されております。是非！）

5. 『お住の霊 綺堂怪異小品集』 岡本綺堂・著 東雅夫・編 平凡社ライブラリー 2022

◆最後に自分の本を一冊、紹介させていただく。今年は文豪・岡本綺堂の生誕百五十年のメモリアル・イヤー！ ということで、綺堂のナマ原稿などを多数収蔵する岡山の勝央美術文学館では、十月いっぱい、〈奇譚の神様〉と銘打って、記念展示が開催されることに。監修役を拜命したのは、不肖ワタクシである。記念出版の第一弾ということで、平凡社ライブラリーから初期作品集も刊行された。怪談作家・綺堂の〈はじめの一歩〉を知るためにも、必読のアンソロジーである。小説・戯曲・怪談実話・怪奇随筆をたっぷり収録。



リストのタイトルは、田原市図書館で所蔵しています。 2022.11 作成